

# ベトナムから10人の技能実習生を受け入れ

## 建設業組合としては県内初の取り組み

山梨中央建設協同組合(宮川武理事長 組合員10社)では、外国人技能実習生共同受入事業の第1期生として、ベトナムから10人の技能実習生の受入事業を開始した。

外国人技能実習生の受け入れは、単一業種の組合としては山梨県アパレル工業組合に次いで県



共同研修中の実習生

内で2番目、建設業としては県内初となる。

実習生10人は4月19日に入国、茨城県取手市の研修施設(国際アカデミー日本語学院)での1ヶ月間に及ぶ日本語会話と日本の生活習慣等の研修を経て、5月20日に受け入れを行う組合員4社へ配属され、受入職種(型枠、とび)での実習を開始している。

外国人技能実習生は、これまで中国が圧倒的な人数を占めていたが、近年では、ベトナムからが急増し、中国を抜き1位となっている。そのため、ベトナム人技能実習生のトラブルが増加する傾向にあり、こうした事態を未然に防ぐことが、受入事業を円滑に行うための組合の課題となっている。

組合では、受入事業の開始から1ヶ月となる7月下旬から、組合理事と事務局に通訳が同行して、受入事業所の訪問巡回を実施。事業所での労務管理面の把握や事業を実施する上でのモラルの厳守

●山梨中央建設協同組合

TOPICS



ロールプレイによる研修中

と適正な対応の徹底を図るとともに、実習生の生活面での悩みを聞き、メンタル面のサポートを行うことを最優

先に考え、ヒアリングを通じた実習生とのコミュニケーションにも積極的に務めている。

また、組合では、年度内を目処に第2期生の受入れも計画しており、できるだけ早い時期にベトナムを訪問して第2期生の面接を行いたいとしており、新たに受け入れを検討している組合員からの期待も高まっている。